第５９回　熊本県保育研究大会　玉名大会　　　　参加者：47名

「第５分科会」特別分科会　テーマ：今後の保育園のあり方・役割を探る

～くまもとの保育園はどうなる？どう変わる？～

保育制度が昨年度から大きく変わり保育指針改定、社会福祉法人改革、人口減少化社会などの変化に伴い、これからの保育園のあり方が問われています。養護と教育、保育士不足による人材育成や処遇改善（キャリアアップ等）、リーダーとして何をどう考えて船の舵取りを進めていくべきか。参加者の皆さんと一緒に、様々な保育に関する課題を取り上げ、未来への保育園のあり方を探る分科会です。

第１部　講演会

　　　　講演「これからの保育園に求められるもの～リーダーの役割～」

　　　　講師　亀原　了円先生（本井出みのり保育園　園長）

**（仏教保育）**

仏の子どもを育てたい⇒いろんな人と生きる、いろんな命を頂いて生きる。最近は季節感が薄くなってきたように思う⇒昔は食べ物などで季節感を感じることができていたが、今は１年中なんでもあるので季節感が薄れる。そうならないような話を日頃から行っている。雨を嫌なものとして見るのではなく、「地球さんが水を飲んでいる」など観点を変える。命の循環という観点が大切で一人では生きられない、多くの人との関わりがあり「ありがとう・ごめんなさい」など保育園生活の中で伝えていく。

**（主任・保育士・園長との関係性）**

サッカーで言うとフォワードは保育士である厨房の調理師。園長はいいパスを最前線に供給する役目。園長はバックス。当園では主任保育士を２～３年で交代する制度を取り入れているが、一度主任保育士になったらその人がずっとでは固定化してしまいがち。２～３年で交代することでいろんな方が園の中心となる体験をする。若い人でも早いうちに主任保育士を経験していくことで活性化につながるのではないか。主任保育士さんはラグビーで言えば９番のスクラムハーフ、それを支える８番、１０番の「スタンドオフ」ここで全体を組み立てて試合を作り運んでいく中心選手。「人を育てる力」これからの保育園の経営で最も問われる大事なこと。

**（あなたがいるだけで）**

地元高校へ子ども達が通ったがいい人材は東京にやったら帰ってこない。スポーツでも学問でもそうだから九州国を作って独立したほうがよっぽどいい（笑）ＰＴＡをやって良く分かることがある。教育と言うが上から目線の感覚で教壇の上から教える自分に誤解する先生が多く、子どもの命を語れる先生は少ない。「保育」は共に育ちあうもの。「命輝く」とはどういうことか？「Ｄｏｉｎｇ」はその人の行い・する、「あの人が～したからこうだ」「あの人が～といったから」という考えだが、一方で「Ｂｅｅｉｎｇ」その人のあり方・存在そのもの、そこにあるだけでいい家族というものがある。存在を認め合う力や認めあえる時間、存在が繋がりあった時が「命輝くとき」ではないか。

**（家庭力、家族力）**

自殺の時に説法することが一番難しい。自殺した本人もつらいのだろうが、残された方はもっとつらい。

仏教の教えでは基本的には待ってくれと、自分は自分であって自分ではない。幾千万年の父と母が関わって生まれてきたあなたの一つの命は数限りない命で構成されている。自殺は自分の中の複数の命を一緒になくすことと一緒だから。だからにょろにょろしながらガンバレと言う。終わりがあるから美しい。今日という日は二度と来ない、今日という日に命を頂いているということですから。

**（ありがとうの関係と複数養育）**

施しの喜びを知ったことが人間としての喜び。前にいる人を拝んであげる、お互いが拝みあえる園長・保育士でお互いに「ありがとう」と拝みあえる関係であって欲しい。なかなか簡単なことではないので、人間関係の訓練としてお互いに拝み合う。人生は長さではなく深さや幅広さ。ゲットする喜びではなく与える喜びを。現代は核家族などでしかも複雑になり養育が出来ない環境が多い。母親のパニックなどを見かけるがつい泣く子どもには、泣かない様にといろんな物を与え泣かせない子育てをする。すると泣けば何かくれることを覚える子ども達。社会に出た時に適応能力（我慢）がなく、強く言えば何とかなる手に入ると思ってしまう。どうなるか。青年期になると振り向かない女性に腹立つ青年。保育園での「複数養育」としては、祖父母参観・縦割り保育などがある。子どもの生い立ちの中での両親・祖父母の関わり「誰かのお蔭で生きている」という感性を就学前に育てたい。人間は自分が愛おしいと思ったものには、いくらでも愛情をかけられる。しかし、無意識に差別をしやすい生き物が人間の本質であるので、だから継続して啓発する研修にも参加していく。その部分を皆と一緒に考えていけるようなリーダーが必要だ。

**（リーダーとして）**

保育士さんが輝ける職場であれば、「ありがとう」「ごめんなさい」が自然とでる。園長の役割として、国や県など、上が言ったことをそのまま実行するのではなく、違うと思えばそれを行政などに意見を言い声を出していくことも園長の大事な仕事である。

第２部　ワールドカフェ（グループ討議）

　　　　テーマ「これからの保育園のあり方・役割を探る」

座長　本藤　潔（菊池さくら保育園　園長）

進行　永田　彰（延慶寺保育園　園長）

記録　松本　美保（長洲保育所）　牛島　史子（春富保育園）

**（グループ分け）**

・アイスブレイクで全参加者が月１日～１２月３１日の順番でまず並ぶ。

誕生日は自分の生まれた日、親があなたにやっと会えた日。

**（ウォーミングアップ）**

・「心」がつく漢字を二人一組でＡ４用紙に書いていく

**（自己紹介）**

・各グループ毎に、「園名　氏名　マイブーム」

**（ワールドカフェ）**

・グループ名を決める（○○保育園）

・テーブルホストを決める（○○園長先生）

１、テーマに沿って、いろんなアイディア、意見、感想、悩み、などを話しながら書き込む

２、いいアイデイァなんて１００個に１個、質より量！！

３、１５分したらグループチェンジ。園長先生は動かず、前の話し合いの説明係り。

４、２回グループチェンジしたら、最初のグループに戻ります。自分の書いたことに反応・共感・発展があったら嬉しい。

◎話し合いの手がかかり（キーワード）

保育園をとりまく様々な課題。少子高齢化、都市部と地方の格差、子どもの貧困、社会福祉法人改革、地域貢献、児童虐待、保育士不足、処遇改善（キャリアアップ）、リスクマネージメント、特別支援保育、保護者との関わり、現在課題に感じていること、困っていること、悩んでいることなど

　　地域社会、子育て家庭からのニーズ。気づいたら発言してみて、合わせて書き込む。一人、自園で

は思いつかなかったアイディアが出てくる。

**（発表・まとめ）**

・保育士不足…情報交換による評判の出回り（休みがないなど）。休みは大事！！土日を挟んで１週

間とるところもある。休みをいかにして十分に取れるようにするかが大事。

・子育て支援センターを開設したいが…田舎の方では利用者の保護者を、暇で時間があると思われてしまう。⇒地域の意識を変える　地域へ支援センターの情報発信。

・園長先生と主任保育士との関わり

担当制の導入をしたい　担当制のことをまずは理解をする学ぶ狙いなど

園長・主任・保育士お互いに学びあう。

・保護者の支援がどんどん大変になってきている

保育士の仕事が増えて、負担が大きい。園長・主任がフォローして、専門機関へつなげる。

　　保護者がラインでグループをつくって、炎上！！　担任がもたなくなってやめる。

　　保護者にも理解してもらう　　管理者が敏感になり保育士を守っていく。

・職員会議の時間をどうやってとっているか？なかなかみんなで集まるのは難しい

　　会議の方法　ひやり、はっとノート　ニコニコノート⇒事務室に置く

・昼休み会議や研修をした時の、休憩の時間はどのようにとっているのか？

保育士不足…原因は給与？

フルタイムのパートの不足　自分の働きやすい時間で働く人が多い。

研修に出ても研修にでた先生によってとらえ方が違う。どのようにしたら保育士の質の向上がスムーズにいくのか？

職員の共通理解をする場の工夫。朝礼、昼礼、退礼など。

地域との関わりをどう持つか。